

## 令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和 4年 4月 7日現在

研究課題名	旧ソ連戦争記念碑の比較	
申請者	氏名	所属機関・職
	前田しほ	島根大学法文学部・准教授

## 研究成果の概要

本研究は、科研費基盤 C「旧ソ連諸国の戦争記念碑比較研究：権威言説の視覚化と地域性」（2015-2019年度）の継続研究として計画した。旧ソ連 15 か国の首都を中心に記念碑の現状を現地調査し、現在は、その成果をとりまとめ、分析している。本年度は9月に滞在し、事実関係の確認、当時の報道の実態、文言の確認をするために、北海道大学所蔵の図書・資料を利用した。所属先ではアクセスできないロシア語雑誌や海外電子ジャーナルに集中的にアクセスし、海外の先端的な記念碑研究についても網羅することができた。もともとモスクワでの文献調査を予定していたが、コロナ関連の混乱で中止に追い込まれ、成果取りまとめが遅れていた。今回は、資料収集の貴重な機会をいただき感謝している。

これらの資料を用いて、下記の研究発表を行ったほか、今後の成果発表に向けて準備を進めているところである。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

口頭発表

「ソ連の戦争記念碑（人物像）のジェンダーと地域性：ニケ型記念碑分布の偏りについて」、2021年度ロシア・東欧学会全国大会、2021年10月16日（オンライン）

「独ソ戦の不都合な記憶：イ・グレーコワ『寡婦たちの船』の戦傷兵と不貞の妻を中心に」、第8回「文化としての社会主義」研究会、2022年3月19日（オンライン）

論文

『『生きよ、そして記憶せよ』と戦争記憶：スケープゴートとしての脱走兵の妻』セーヴェル第37号、5-25頁（2021年）※過去の共同利用型の成果として、謝辞有

「ソ連の戦争記念碑のジェンダーと地域性：母国の母と悼む母のイメージ」ロシア・東欧研究第50号掲載予定（2022年刊行予定）※謝辞有

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。